

# アウトウジョイントV字トレリス栽培の側枝育成に 満開後 30~40 日の新梢切戻し処理が有効である

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹-アウトウ-栽培

## 2 担当者

安達義輝・桑名篤・三田村諭・南春菜・渡邊善仁・増子俊明

## 3 要旨

アウトウのジョイントV字トレリス栽培(JV栽培)では、幼木期に主幹部付近から発生する側枝が強勢となりやすい。側枝生長の確保と花芽着生の安定を両立させる側枝管理法として、満開後 30 日頃に側枝から発生する新梢を基部葉5~6葉を残して切戻す処理が有効であった。

(1) アウトウ「佐藤錦」JV 栽培における幼木期の側枝生長は、主幹部付近が旺盛となりやすく、主枝先端部が緩慢となる傾向であり、また側枝基部径と側枝長には有意な正相関が認められた(図1, 2)。

(2) 側枝生長の確保と花芽着生の安定を目的とし、側枝から発生した新梢を基部葉5~6葉に切戻す処理適期を検討したところ、満開後 30~40 日頃に処理することで品質に差がなく花芽の安定確保が可能であった(表1, 2)。

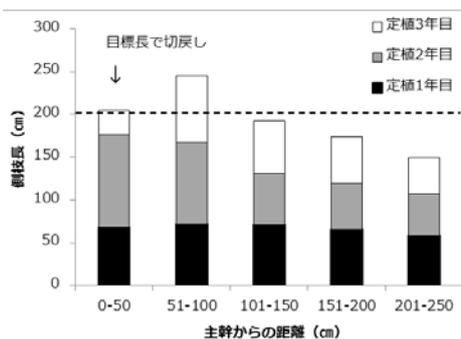


図1 アウトウ「佐藤錦」JV 樹形の側枝長

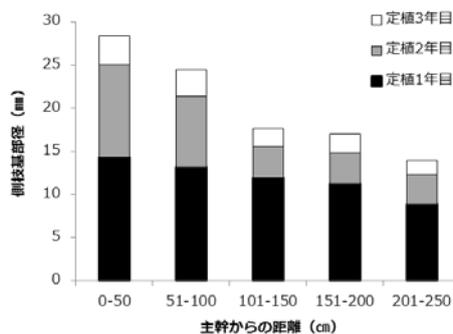


図2 アウトウ「佐藤錦」JV 樹形の側枝基部径

表1 アウトウ「佐藤錦」JV 樹形における側枝新梢の切り戻し処理効果 (定植2年目)

処理区	側枝 本数	2017/2016比		側枝延長枝長 cm	新梢長 <sup>z</sup> cm	花芽着生率 %	平均花芽数 個
		側枝基部径	側枝長				
満開後15日	31	1.70 <sup>b</sup>	1.97	84.1	74.8 <sup>b</sup>	63.3 <sup>b</sup>	5.0 <sup>ab</sup>
満開後30日	7	1.36 <sup>b</sup>	2.28	97.9	61.0 <sup>b</sup>	82.2 <sup>a</sup>	6.3 <sup>a</sup>
満開後45日	12	1.86 <sup>ab</sup>	2.28	89.5	61.7 <sup>b</sup>	67.7 <sup>ab</sup>	4.6 <sup>ab</sup>
無処理	12	2.15 <sup>a</sup>	2.07	79.1	245.0 <sup>a</sup>	69.4 <sup>ab</sup>	3.5 <sup>b</sup>
F値 <sup>y</sup>		6.56 <sup>**</sup>	2.94 <sup>*</sup>	0.70 <sup>ns</sup>	9.14 <sup>**</sup>	5.03 <sup>**</sup>	4.89 <sup>**</sup>

<sup>z</sup>: 新梢長は、処理区は処理部の副梢長の合計値、無処理区は腋芽から発生する新梢長の合計値。

<sup>y</sup>: \*\*, \*は検定において危険率1、5%水準で有意差あり。nsはなし。

Tukey-Kramer法により、異符号間に有意差あり (p<0.05)。

表2 アウトウ「佐藤錦」JV 樹形における側枝新梢の切り戻し処理効果 (定植3年目)

処理区	側枝 本数	2018/2017比		側枝延長枝長 cm	新梢長 <sup>z</sup> cm	果実重 g	裂果 %
		側枝基部径	側枝長				
満開後30日	36	1.25	1.63	92.4	92.5	8.4	6.8
満開後40日	26	1.20	1.60	87.1	55.9	8.5	11.0
F値 <sup>y</sup>		1.62 <sup>ns</sup>	0.46 <sup>ns</sup>	0.52 <sup>ns</sup>	1.47 <sup>ns</sup>	0.11 <sup>ns</sup>	1.74 <sup>ns</sup>

<sup>z</sup>: 新梢長は、処理部の副梢長の合計値。裂果率はarcsin変換後に検定。

<sup>y</sup>: \*\*, \*は検定において危険率1%水準で有意差があることを示す。nsはなし。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28 年度~30 年度
- (2) 研究課題名 果樹のジョイント栽培等新技术の導入による革新的栽培技術体系の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

## 5 主な参考文献・資料

なし

(活用した事業名: 農林水産省:革新的技術開発・緊急展開事業(うち先導プロジェクト・人工知能未来農業創造プロジェクト))